

# 情熱の国ブラジル・サンパウロに生きる日本人保護者と子どもたちのスポーツの現状

前サンパウロ日本人学校教諭

茨城県ひたちなか市高野小学校教諭 友常 雅士

キーワード：スポーツ、アウラ（現地・日系・日本人）、日系教育施設、公園、サッカープロリーグ観戦

## 1. はじめに

ブラジルでのスポーツ系アウラ（習い事）をそれぞれ①現地、②日系、③日本人、の3つの観点から見つめ、今のブラジル社会を生きる日本人保護者や子どもたちの運動に対する思いや願いを考察した。また、日系教育施設の運動会やバレーの社会人チームに参加したり、公園や遊具の実地調査・サッカー観戦・サッカー施設見学をしたりすることで、この時代における生のブラジルや南米のスポーツ事情を体感し、ブラジルの社会体育全般を考察し、研究したことを以下にその概略を紹介したい。

## 2. 調査・研究の結果(概要)

研究の内容

- (1) ① 現地アウラ（サッカーコリンチャンス、水泳）  
② 日系アウラ（サッカーmusashi）  
③ 日本人アウラ（朝トレ、未来塾アレグリア）  
への視察から特色や違い、親の思いなどを考察すること。
- (2) ① 日系私立学校「大志万学園」の運動会  
② 日系幼稚園「タンポポ幼稚園」の運動会  
③ 日系バレーボールチーム  
への参加から日系の運動会のやり方や、バレーチームの参加者の思いを考察すること。
- (3) ① サンパウロ市内の公園、及び遊具の実地調査  
② サッカーの試合観戦  
③ サッカーミュージアム等の施設見学からみるブラジルのスポーツへの取り組みを考察すること。



## 3. テーマに迫るために

- (1) それぞれのアウラへ可能な限り足を運び、そこでコーチの指示や子どもの動かし方を読み取り日本との違いを考察する。また保護者の方からインタビューしたりお話を聞いたりしながらブラジルでスポーツアウラをさせる親の思いなどにも迫りたい。
- (2) 日系の団体のチームへの参加や日系私立学校の運動会へ参加し、そこで活動している人たちの思いや考えを共有していく。また、やり方や雰囲気なども考察していく。
- (3) サンパウロ市内の公園で実地調査をし、公園で過ごしているブラジル人家族の様子や交流を通して現地理解を深める。また、遊具なども実際に使いながら日本の遊具との違いなどを考察する。また、サッカーのプロリーグの試合を観戦し、サッカーの聖地であるブラジルの生の応援やサポーターの情熱を体感する。また、サッカー記念施設などを訪問し、ブラジルのサッカーの歴史や発信の仕方などを考察する。

#### 4. 実践と考察

(1) 現地アウラ、日系アウラ、日本人アウラへの参加を通して、特色、やり方、親の思いなどを考察すること。

① 現地アウラ (サッカーコリンチャンス…金曜日 16:00~17:00)

(水泳 …火曜日 18:00~19:00)

週に1時間、現地のサッカーアウラに子どもを入れ習わせた。金曜日が早帰りなので、学校からモトリスタ (運転手) に依頼して、4家族程度でコリンチャンスの練習場 (Cambusi) まで送迎して頂いた。色々な場所ではほぼ毎日開催されていて、現地の子もたちが多く通っている。現地校は午前中には学校が終わるので、午後から通わせているお子さんが多い。曜日や時間帯、カテゴリーによっても様々な形態がある。コリンチャンスだけでなく、パルメイラスやサンパウロ FC、ヒバリーニョなど、日本でいう地域スポーツクラブのような形で活動している。月謝はR\$140 (≒¥4000) である。

ブラジルのサッカーの指導は、まず「楽しく」がモットーのように感じる。どの子どもも楽しくやらせることに重きを置いて居るように思った。内容としては、リフティングや、ボールコーディネーション、シュート練習など、日本と同じようなメニューを行い、ゲームにつなげていくという流れであった。日本のように細かく技術指導を行うことはない。コーチの目にとまった子どもたちは上のカテゴリーに行き、そこで細かい技術指導や戦術などを教えていくようであった。

不定期にカラー戦といったものがある。申し込みをして、4チームに分かれリーグ戦を行う。カテゴリー別に別れ、優勝を目指して戦うものである。(①小1~3、②小4~5、③小6~中1、申し込みの状況や選手の能力で変動があるよう。) 日曜日に開催された。アルゼンチンのボカジュニアーズと試合を行ったこともあった。

保護者の方からは、やはりブラジルの文化をスポーツを通して経験して欲しいという願いや、せっかくブラジルに来たのだから、サッカーをやらせたいという思いが多かった。うちの子どもの場合は、このサッカーでポルトガル語をたくさん覚えたり、現地の子もたちと仲良くなったりと、たくさんの国際交流ができたように感じる。好きなことから言語や交流を進めていくというのは、子どもも保護者もとても重要な要素だと感じた。

また、水泳のアウラへも参加させた。週に1時間、25mプールがあるプレジオにコーチを呼んでのレッスン。これもブラジル人のコーチの指導の下、子どもは3、4人限定で行った。子どもの泳力によってわけた。技術指導を丁寧に行い、1時間みっちり泳ぐ。クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳ぎの4泳法をしっかり指導してくれた。月謝はR\$140 (≒¥4000) である。

② 日系アウラ (サッカーアウラ MUSASHI…土曜日 8:30~10:30)

週に2時間、日系のサッカーアウラに子どもたちを通わせた。1年目は長男だったが、2年目からは長女と次男も習わせた。土曜日の午前中にサンパウロ大学の薬学部のグラウンドを使用させてもらって活動した。このMUSASHIは日本のサッカー選手水島武蔵氏が、ブラジルで生活する日本人のためのサッカースクールをするのに30年以上前に作られたものである。サンパウロ日本人学校の児童がたくさん入っている。半分が日本人、半分がブラジル人という形態で活動している。コーチはマルコス氏という日系の方が中心となって現地のブラジル人4名が指導に当たってくれた。カテゴリーは小1~小3、小4~小6の2つで活動している。月謝はR\$140 (≒¥4000) である。



内容は、やはり「楽しむこと」がモットーのようで、細かな技術指導や戦術的なものではなく、基本練習を行った後、ゲームという流れである。サンパウロ日本人学校の児童もたくさんいるので、現地の子もたちとサ日 (サンパウロ日本人学校:以下サ日と略) の子どもたちとよいコミュニケーションを取る場となっている。コーチが現

内容は、やはり「楽しむこと」がモットーのようで、細かな技術指導や戦術的なものではなく、基本練習を行った後、ゲームという流れである。サンパウロ日本人学校の児童もたくさんいるので、現地の子もたちとサ日 (サンパウロ日本人学校:以下サ日と略) の子どもたちとよいコミュニケーションを取る場となっている。コーチが現

地のサッカーチームとつながっているのです、試合をすることもあった。(サンパウロ FC、パルメイラス、サントスなどと練習試合を行った)

また、保護者もたくさんいらっしゃるのです、親同士、親と先生同士のコミュニケーションを取る場としても機能していた。普段学校でお話しできないことなど、この場でたくさんお話ししたりして、良かった場面がたくさんあった。親の願いとしては、このブラジルでなかなか運動をさせる機会がない中、子どもたちを運動させられる機会があることが非常にありがたいということや、サ日の子どもたちがたくさん通っているのです、子ども同士のつながりの場となること、ブラジルの子どもたちとの交流の機会になることなどがあげられる。土曜に何もすることなく家でただだらしているよりはサッカーをさせることで運動不足を解消させたいという気持ちもあるとのことである。また、保護者同士の井戸端会議の場にもなっているのです、子どもだけでなく保護者のコミュニケーション場としても一役買っているコミュニティとなっている。

③ 日本人アウラ (朝トレ) 日曜日 6:30~10:00)

(未来塾サッカーアウラ 日曜日 10:30~12:30)

日曜日の朝には、居住区から1キロ程度のところにあるイビラプエラ公園で、スポーツアウラ、通称「朝トレ」を(といっても無料で協力して行っている)保護者が有志で行っている活動である。きっかけは、サンパウロ日本人学校の子どもの運動する機会の確保と、親子と一緒に活動することでの絆を深めることである。初めは3家族からスタートした。いまでは、活動の意義に賛同した15~20の家族が活動を行っている。

内容は、様々なスポーツを体験させるというコンセプトの元、キャッチボールやドッチボール、タグラグビー、サッカー、リレーなど色々なものを行っている。指導は、父親らがコーチとなって、それぞれのスポーツを回していくという形で行っている。朝早いので、果物やパンなどを持って行って、運動してから休憩の時に食べながら行うといった具合である。幼稚園児から小学6年生までと一緒に活動している。年齢や能力、保護者の指導できる種目などに応じて、活動している。

これもMUSASHI同様、保護者のコミュニケーションの場となっている。また、子どもと一緒に活動するので、親子のコミュニケーションもとれ大変有意義なものになっている。また、有志で行っているのです、無料で行われているという点も大変大きい。日曜日の朝早起きして親子や友達同士、他のご家族と一緒に汗を流す活動は、健康的で、スポーツにおいては大変意義深いものだと思う。

次は、サッカーアウラ「アレグリア」である。広島県人会の体育館を利用して行っている未来塾主催のアウラで、元フットサルのプロである古庄氏がコーチで教えて下さっている。これは、カテゴリーは主に3つに分かれている。①小1~3、②小4~中3、③大人、2時間でR\$50(≒¥1400)である。

内容は、細かい技術練習を日本語でしっかりと行ってくれた。ラダートレーニングから始まり、ドリブルの基本練習、ゲーム的な要素を入れた状況判断の練習、そしてゲームという流れ。日本のしっかりとしたサッカースクールというイメージである。長期休業に合わせて合宿なども行ってくれている。イトゥー市やウルグアイへ行く合宿を計画して下さり、それぞれ現地の大会などに参加してくるので、子どもたちにとって大変有意義な企画になっている。子どもたちも日本語でわかりやすく教えてくれるので、理解しやすく成長している。また前向きで励ましを中心とした声かけや、理論的なトレーニングなどこれだけのトレーニングをこの地球の反対のブラジルで受けられるのは大変ありがたいと感じた。

(2) ブラジルの日系学校(大志万学園、タンポポ幼稚園)の運動会・日系バレーボールチームへ参加し、やり方や状況を考察すること。

① 日系私立学校「大志万学園」の運動会

幼稚園児から高校生まで幅広く受け入れている日系の私立学校である。運動会にサンパウロ日本人学校として招待して頂いたので、4人で参加させて頂いた。4月に行われた運動会は、400mトラックのある広大な陸上競技場のようなところを貸し切って行われ、客席も設置型で、雨よけや多目的のスペースなどもあった（サ日が移転して運動会を行う際には大いに参考になると思う）。



内容は、一言で言うと日本の運動会のイメージである。玉入れやくす玉割り、障害物競走やソーラン節、応援演技、100m競争など、日本の運動会を参考にして作られた印象があった。午前中に幼稚園児から小学校中学年までが競技を行う。その間の係やお手伝いなどを小学校高学年から中学生が行う。午後は、小学校高学年から中学生が競技を行い、係や手伝いなどは教師や保護者が行うということである。お昼をごちそうになった。大変豪華な手作りのもので、例年、中学3年生の保護者が担当で、振る舞いを行うとのことである。中学生は1年生から3年生まで25名在籍している。

運動会の他にも、生け花や茶道、習字や日本語のスピーチコンテストなど日本の文化をカリキュラムの中で指導している。希望者による日本への1ヶ月程度の研修も行っているとのこと。これだけの日系の教育が地球の反対側で行われていることに、先人たちの努力と日本人への信頼をうかがい知ることができた。

## ② 日系幼稚園 「タンポポ幼稚園」の運動会

次男が2年間お世話になった幼稚園。日系の幼稚園で、園長先生は宮城教育大学で幼児教育を勉強なさって、このブラジルで日系の幼稚園を運営されている方である。

内容は、日本とブラジルの融合が上手にされている運動会である。1年目はディズニー、2年目はワールドカップ、3年目はフェスタジジュニーナといった具合に、毎年テーマがあり、そのテーマに沿った競技が行われた。園児・保護者、卒業生が出場する種目とバラエティーに富んでいて、家族みんなで楽しむ運動会であった。ボーイスカウトの会場で子どもに、食券を買って、シュハスコやおにぎり、飲み物などを購入することができる。種目に使用するものは先生方が手作りで作っている。どの種目も大変工夫が凝らされていて、見ていてとても楽しい。また、カポエラの発表や、ブラジルのお祭り（フェスタジジュニーナ）の衣装を着て踊ったりと、ブラジルらしさを随所に取り入れた演目になっている。



## ③ 日系バレーボールチームへの参加

週に1回土曜日の夜にヴィラマリアーナにある日系のバレーボールチームに参加させて頂いている。もともと妻がバレーをやっていたこともあり、ポルトガル語の先生のご友人がバレーをやっているとのことだったので、紹介して頂いた。日系の人たちが週に1回、2時間程度体育館を借りて行っていた。医者や大学職員、薬剤師といった方が多かった。中学生や台湾から来ている人なども居た。みなお子さん連れだったので、バレーをやっている間、子どもたち同士で遊んだりして良い異文化交流の機会になった。ストレス解消に生涯スポーツとして行っているバレー団体に参加させて頂いて大変貴重な機会となった。みなさんとても気さくな方だった。週に1回異国の地で、自分たちがやっていたスポーツで交流できたことは、我が家にとっても大変ありがたい機会となった。

(3) ブラジルの公園や遊具の実施調査、及びサッカーの試合観戦、サッカーミュージアム等の施設見学からブラジルの生のスポーツへの取組みを考察すること

### ① サンパウロ市内の公園、及び遊具の現地調査

サンパウロ市内にはたくさんの公園があって、休日は多くの家族連れで賑わっている。1番よく行ったのが、イビラプエラ公園だった。広大な敷地の中に、フットサルコート、バスケットコート、テニスコート、サイクリング施設、遊具施設、芝生、ミュージアム、プラネタリウム、日本人館、噴水、池などたくさんの施設があった。1日ここ



にいても飽きないくらい、多くのものがあった。至るところに売店がある。ハンバーガーやお菓子、飲み物やアイス、綿菓子など売っている。ビニールボールやブーメランなど子どもたちが遊ぶものもたくさん売っていた。

サイクリングでは、1時間 R\$10 (≒¥300) 程度で自転車を借りることができる。身分証明書を提示して借ります。このイビラプエラ公園以外にもヴィラロボス公園などでも同じようにサイクリングできた。

遊具に関しては、日本と同じようなもの（ジャングルジムや滑り台、ブランコなど）も多くあった。1番感じたのは、手作りの木製の遊具が多いということだ。物を大事にするブラジルならではの感覚だと思った。また、写真のようなトレーニングができる器具が、公園だけでなく、町中やビーチなどによく置かれていた。筋トレが好きなブラジル人が大変多いというのも印象的だった。スポーツクラブも至る所に有り、R\$99 (≒¥3000) で利用し放題のところが多く見受けられる。

その他の施設として、トランポリンパークや木登りアスレチック、スキーを履いて液体石けんを付け、人工芝を滑り降りるスキー公園、遊園地やプール施設など子どもたちがたのしめるものがたくさんあった。

### ② サッカーの試合観戦

ブラジルはサッカーの聖地ということで、いつでもどのスタジアムでも試合が開催されている。とりわけ、コリンチャンス、パルメイラス、サンパウロFC、サントスの試合は、クラシコと呼ばれ伝統戦でサポーターの応援にも熱が入る。それぞれのチームにホームグラウンドが有り、ユニフォームやタオル、キーホルダーや帽子などが売られている。荷物チェックは厳重に行われる。また会場内ではアルコールは売っていない。観戦に行くときは、そのチームの色のユニフォームを着ていかないと危険である。それぐらいサポーターは自分のチームに誇りを持っている。

パルメイラス戦、サンパウロFC戦、コリンチャンス戦を2回、日本代表戦（コパアメリカ）を見に行った。南米特有の雰囲気や、試合を楽しむインスピレーションなど、日本とはひと味違った独特の文化があるように感じた。

コパアメリカでは、日本代表の公開練習を学校として見に行った。この貴重な機会にこのブラジルの地にいられて子どもたちとともに代表選手とふれあうことができたのは大きな喜びだった。コパアメリカ関連のビバカンを3回行うことができたことも大変貴重な機会として保護者や子どもたちに提供できたと思う。

### ③ サッカーミュージアム等の施設見学

博物館としては、サンパウロのコリンチャンスミュージアム、パカエンブーのサッカーミュージアム、サントスのペレミュージアム、リオのセレソンミュージアムを見学してきた。それぞれブラジルサッカーの歴史や代表選手のデータや歴代ユニフォーム・歴代ワールドカップ・コパアメリカのシャレーなどが展示してあった。

また、スタジアムとしてモルンビースタジアム、コリンチャンススタジアム、パカエンブースタジアム、マラカナンスタジアム、サントススタジアム、アルゼンチンのボカジュニオールズスタジアムを見学してきた。それぞれ収容人数こそちがいますが、とても大きく、日常的にサッカーが行われているブラジルの象徴のように感じた。セレソンやスター選手をリスペクトしている雰囲気を感じることができた。



## 5 成果と課題

(1) 現地アウラに通わせている保護者は、子どもたちの興味や関心をもとに、ブラジルにいるという特性を活かし、現地の言葉や文化にも触れてほしいという思いのもと習わせている保護者が多かった。

日系アウラは、日本人だけでなく現地の子どもたちとの交流も行えるので、そういった面も考えて習わせている。

日本人アウラは、運動不足の子どもたちに運動の機会を与えたいという思いと、親子のつながりを大切にしたいという保護者の思いが多く感じられた。

それぞれの家庭の考え方によるものが大きいですが、ブラジルに住んでいるという特性を活かし、子どもたちに運動の機会を与えたいという保護者の思いが、アウラに足を向かわせている一端になっていることが分かった。

ほかのスポーツにおいてももっと調べてみたかった。

(2) 大志万学園の運動会は、日本の多くの運動会と大変似ていた。ソーラン節やくす玉わり、綱引きなど、このプログラムを行う教育的意義を大切にしているのだろうと感じた。理事長・副理事長ともお話しさせてもらったが、日本への留学や生け花・茶道なども行っており、日系の流れをととても大切にしていると感じた。

タンポポ学園の運動会も園長先生が宮城教育大で学び、日本の教育をブラジルで行っている。2年間息子を通わせてもらったが、色々なプログラムで子どもたちを教育してくれた。運動会にも工夫がされており、日本とブラジルの文化の融合がはかられていると感じた。カポエラやフェスタジジュニーナなどブラジルの演目も充実していた。親子の競技や、卒業生のプログラムなどもあり大変楽しめるものだった。

日系のバレーボールチームへの参加も大変有意義だった。医者や薬剤師さんといった日系の方々が多かった。週末に集まり、体育館を借りて、家族みんなで楽しんでいた。スポーツ・運動における分野だけでも、サンパウロは本当に日系の人たちのつながりが息づいているのだと切に感じた。ほかのスポーツも調べてみたいと思った。

(3) ブラジル・南米各地に公園があった。当たり前かもしれませんが、公園というものが、子どもを成長させる上でとても大切なツールの1つなのだと改めて感じた。親子、子ども同士、親同士、大人のため…いろんな価値観がそこには存在しており、大切にされているからこそ、どこにでも公園があり、どの国民も利用している。

ブラジルは、健康志向が高くなってきているものと考えられる。誰でも使える場所に取り扱いの説明も書いてあった。車いす用の施設もあった。公園だけでなく、町中にもたくさんあった。南米の公園は手作りの遊具が多く、タイヤやドラム缶、木を加工したアスレチックなどが多く見られた。日本では回転系の遊具は危険ということではなくなっているが、こちらはまだまだ多く見られた。

サッカー大国ブラジルにおいてサッカーを観戦する機会に恵まれたことは大変ありがたいことだった。日本サッカーの師匠とでもいうべきブラジルの本場のサッカーは見るに値する素晴らしいものだった。スタジアムの雰囲気・サポーターの熱さ…地域とチームが密接につながっているように感じた。コリンチャンスユニフォームを着ているだけで「オーコリンチアーノ！」と仲間意識を持たれる。サッカーと生活が結びついている感じを強く感じた。コパアメリカという大きな大会で、日本代表戦を見に行けたことも大変有意義なことだった。

サッカーミュージアムなどでは、各チームや代表チーム等のタイトルや今までの歴史が展示されていた。サンパ

ウロではコリンチャンススタジアムやパルメイラススタジアム、リオではマラカナンスタジアム、アルゼンチンではボカジュニオーズのスタジアムを見学してきた。やはり地域と密接につながっており、子どもから大人まで熱狂的なファンが多いと感じた。

今後さらに日本からでも南米のサッカーチームについてさらに見ていきたいと思わせてくれる時間となった。